

第 5 学 年 算 数 科 学 習 指 導 案

日 時 平成 16 年 10 月 19 日 (火) 6 校時
 児 童 5 年 1 組 男 13 名 女 11 名 計 24 名
 授 業 者 平 芳 明

1 単元名 4 小数のかけ算とわり算(2) (東京書籍)

2 単元について

(1) 教材観

この単元の指導に関わる小学校学習指導要領の第 5 学年の目標は、「(1) 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」である。

本単元では乗数と除数が小数の場合を扱い、かけ算わり算の積を「全体量」、商を「1 つぶんの量」ととらえる意味の拡張をすることがねらいとなっている。これまでの指導においては、乗法の場合、基準量 \times いくつ分という式で統一できていたので累加の考え方も適用できたが、乗数が小数になるとその範囲を越えて考えなければならぬところに難しさがある。除法の場合は、これまで解は被除数より必ず小さくはなっていたが、純小数でわると被除数より大きくなるなど、単に「分ける」という概念では考えられなくなってくる。また、計算のしかたについて、既習と関連させながら、小数点の打ち方の意味(10 倍、100 倍して整数化して計算するので解に $\div 10$ 、 $\div 100$ をして小数に戻す)の再確認などを通して、児童自らが計算方法を導き出せるようになっている。

このように、乗法除法の意味の拡張を児童が主体的に学習できるように適した教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、算数学習に対して男子は積極的、女子は消極的という傾向がある。発言等男子に片寄る場面が多く、指名しないと発言しない子が女子に多い。自力解決や練習問題には真面目に取り組むことが全体としてできている。ただ、見通しを確実に言えたり持つことや、練り上げの比較検討でよりよい考え方などを見つけていくことが苦手な部分が全体としてある。

発展的に学習することについては、計算の桁数を増やしたり学習した図形を活用して新たな形を作ったりすることには興味を持って意欲的に取り組むことができる。ただ、数学的な考え方を基に発展的に学習することに関しては一部の児童しか対応できていない。

本単元の学習を進めるにあたり、その基盤となる基本的な事項を確認するとともに、実態を把握するための事前テストを行った。結果は次のとおりである。

問 題	正答率	誤答例・誤答理由
・計算のきまりを活用し計算のしかたを考える問題	60%	等式の意味が分からない、計算のきまりを忘れている
・小数 \times 整数、小数 \div 整数の計算問題	91%	小数点打ち忘れ
・小数 \times 整数の文章問題	94%	除法の式にしている、小数点打ち忘れ
・小数 \div 整数の文章問題	85%	商に 0 を立て忘れていた為答えが整数値になっている
・小数 \times 小数、小数 \div 小数の計算問題(未習)	19%	小数点の位置(乗法)、わり進みの仕方(除法)

乗法の計算(筆算)、文章題についてはほぼ定着しているともと思われる。除法に関しても、筆算や文章題の立式等は概ね理解している。ただ、計算のきまりや等式の意味について未定着な面が多かった。

(3) 指導観

本単元の指導は、かけ算のしかた、わり算のしかた、小数倍の 3 つの小単元に分けて指導を行っていく。

かけ算については、 2×3 を $2 + 2 + 2$ と累加でとらえていると、 2×3.2 の場合には「2 を 2.3 回たす」とは考えられなくなる。そこで、もう一度かけ算の意味を見直すことになる。数直線図やことばの式を活用し「 \times 整数」の場面と対比させながら、かけ算の意味を小数でも適用できることを気づかせたい。

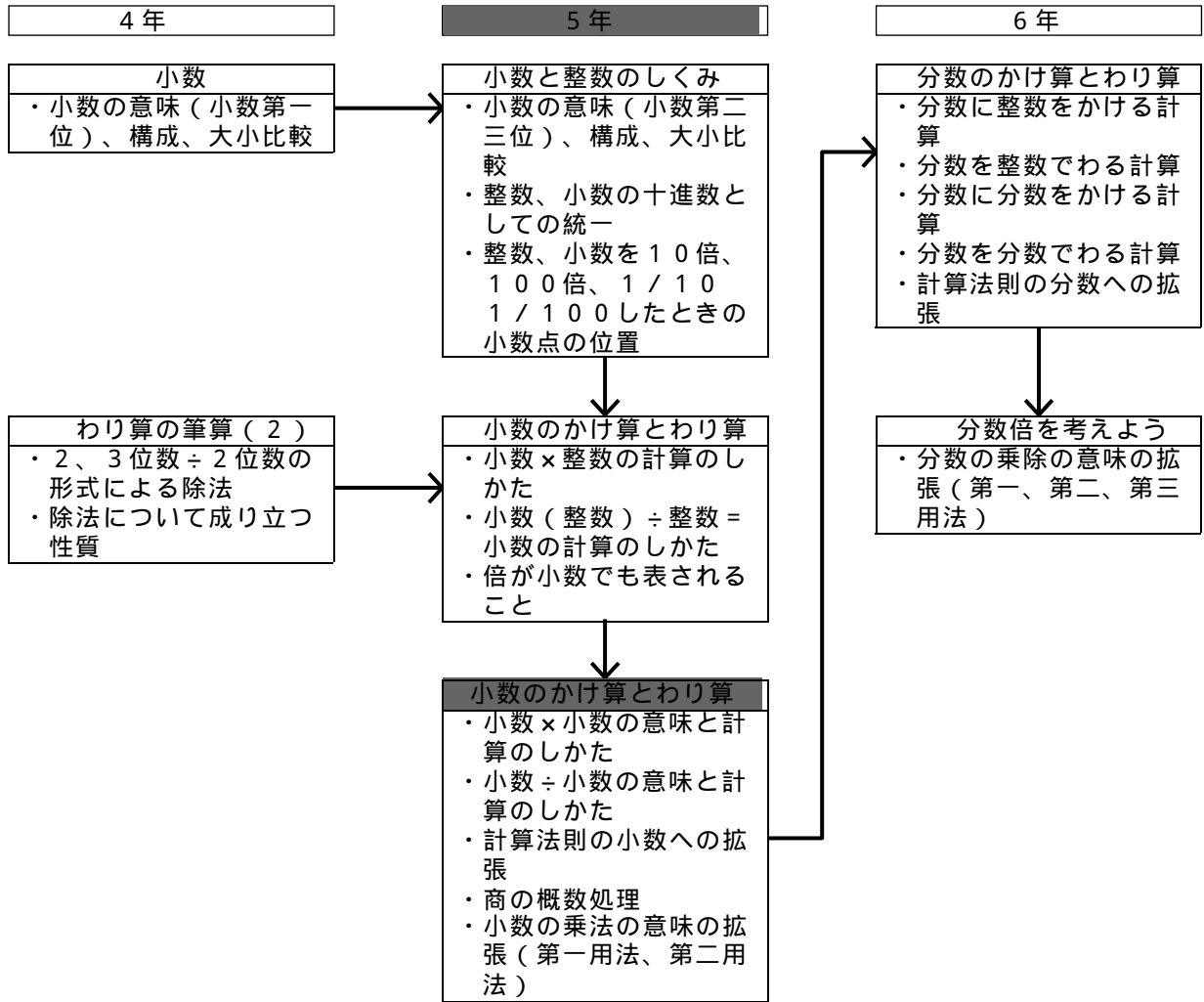
わり算についても除数が整数だけでなく、小数の場合にも使えるようにするために、わり算の意味を拡張していきたい。等分除の場面で $200 \div 2$ は「2 等分する」という意味があるが、 $200 \div 2.5$ では「2.5 等分する」という意味にとらえることができない。そこで、数直線図やことばの式などと関わらせながら、わり算の意味を「1 つぶんの量」を求める計算という意味に拡張していきたい。

計算のしかたについては、整数や小数 \times 整数、小数 \div 整数の既習の計算と関連させながら児童自らが、小数点の位置などに気をつけながら「 $\times 10$ 」をしたら「 $\div 10$ 」をするという計算のきまりを導き出せるように指導していきたい。尚、計算のしかたの指導では、 $1 / 100$ の位以下の小数 \div 小数の発展的問題を取り上げ計算方法の更なる定着と深化を図っていきたい。

また、小数について、比較量 \div 基準量 = 何倍、基準量 \times 何倍 = 比較量、比較量 \div 何倍 = 基準量が成り立つことを、既習事項をもとに数直線図を活用して数量の関係を把握させていきたい。

単元のまとめでは、電卓を用いた数当て手品をモチーフにした発展的指導を行い、学習内容の理解を深め、算数への興味を広げていきたい。

3 教材の関連と発展



4 単元の目標と指導計画（本時12時 / 20時間）

【目標】							
乗数が小数の場合の乗法や、除数が小数の除法の意味とその計算の仕方について理解し、それを用いる能力を伸ばす。また、計算法則は数範囲が小数の場合でも成り立つことを理解する。							
関心・意欲・態度		数学的な考え方		表現・処理		知識・理解	
乗数や除数が小数の場合でも既習の整数の計算の数量関係などをもとにして乗法や除法に表そうとする。		整数の乗法、除法計算と関連づけて、乗数が小数の乗法、除数が小数の除法の計算の仕方を考える。		乗数が小数の乗法、除数が小数の除法の計算をすることができる。		乗数が小数の乗法、除数が小数の除法の意味やその計算の仕方を理解する。	
評価規準							
具体的評価規準(評価方法)							
小単元	目標	学習内容・活動(時数)	関心・意欲・態度	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解	支援計画
							おおむね満足できる子 努力を要する子
小数のかけ算	・小数をかけることの意味と、整数×小数(1/10の位までの)計算のしかたを理解する。	・立式を考える。 ・ 80×2.7 の計算のしかたを考える。 ・ 80×2.7 の計算のしかたをまとめる。(2)		既習の整数×整数、小数×整数などに関連づけて整数×小数(1/10の位までの)計算のしかたをすることができる。 ・数直線などを使いながら既習をもとにして考えれば、小数をかける計算であっても同様にできることに気づく。(イ、ウ)		・小数をかけることの意味を理解している。 ・小数のかけ算は、累加の考え方が使えないことを理解している。(イ、ウ)	【考え方】 問題場面を言葉の式や数直線などに置き換えて数量の関係をとらえ、乗法の意味を説明させる。 既習の小数×整数の計算のしかたを想起させ、小数をかける計算に適用できないか考えさせる。 【知識・理解】 単位小数に着目した考え方や、10倍して小数を整数にして答えを1/10にする考え方や小数をかけることの意味を説明させる。 数直線を使い、小数のかけ算は累加の考え方ではなく、基準量の何倍かを表す計算であることをつかませる。
	・1/10の位までの小数どうしをかける筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	・立式を考える。 ・ 2.3×2.8 の計算のしかたを考える。 ・1/10の位までの小数どうしをかける筆算のしかたをまとめる。(1)		・整数の乗法の筆算のしかたに帰着して、1/10の位までの小数どうしをかける筆算のしかたをすることができる。 ・筆算時に小数点を取ったり付けたたりすることの意味を説明できる。(イ、ウ)			【考え方】 数の相対的な見方、乗法に成り立つ性質などを活用して計算のしかたを考えさせ、それをもとに筆算のしかたを作り出させる。 既習の計算を想起させ、被乗数や乗数を整数にするにはそれぞれ何倍すればよいかを考えさせる。
	・1/10の位までの小数どうしをかける計算(末尾の0を処理したり0を補う場合)ができる。	・ 4.2×7.5 、 0.4×2.3 の筆算のしかたを考える。 ・左記の型の計算練習をする。(1) 発展 ・1/100の位以				・1/10の位までの小数どうしをかける計算(末尾の0を処理したり、0を補う場合)ができる。 ・1/10の位	【表現・処理】 なぜ0が必要なのか、またいらぬのかを記述させるとともに、そのような計算が計算ドリルの目安時間の2/3の時間以内でおかつ90%以上の正答率でできるように挑戦させる。

						十進位取り記数法にもとづき、小数の標記のしかたについて既習事項を振り返らせる。その上で同種の問題にあたる。
・純小数をかけると、積は被乗数より小さくなることを理解する。	・ 80×1.8 と 80×0.8 の計算をして、積と被乗数の大きさを比べる。 ・純小数をかけると積が被乗数より小さくなることをまとめる。(1)		・数直線上の乗数の大きさと関連づけて、被乗数と積の大小関係について考えている。 ・実際に計算したり数直線を用いたりして乗数が1より大きい場合と1より小さい場合の被乗数と積の大きさの関係の違いを説明している。(イ、ウ)			【考え方】 数直線上に数量の関係を表現し、被乗数と積との関係をノートに記述した上で説明させる。 数直線を用い、の位置が1よりも小さくなることに気づかせて積は乗数の大小によって被乗数よりも小さくなることに気づかせる。
・長方形の辺の長さが小数の場合も面積公式が適用できることを理解する。	・縦2.3cm、横3.6cmの長方形の面積の求め方を考える。 ・長方形の中に、1辺が1mmの正方形が何個あるかを調べてから 2.3×3.6 の計算で求める。(1)				・長方形の辺の長さが小数の場合も、面積公式を適用して面積を求められることを理解している。 ・ノートに小さな1mmの単位正方形をかき、それをもとに辺の長さが小数でも面積が求められることを理解している。(ア、ウ)	【知識・理解】 1mmの単位正方形をもとにして考えるに至る過程を説明できるようにさせる。 1mと1cmの関係を想起させ、より小さいものを単位として考えればよいことを理解させる。
・小数の場合でも交換、結合、分配法則が成り立つことを理解する。	・ $x = x$ $(x) \times = x(x)$ $(+) \times = x + x$ の式に小数をあてはめて、式が成り立つか調べる。(1)				・小数の場合でも、交換、結合、分配法則が成り立つことを理解している。 ・3つの計算法則それぞれについて実際に計算し成り立つかどうか確かめている。(イ、ウ)	【知識・理解】 小数の乗法において、交換結合、分配法則が成り立つことが分かり、それらを用いて能率的に計算することができる問題を作成させる。 乗法に関する一般法則の図を用いて法則を理解させる。
・学習内容に習熟する。 ・学習内容の理解を深め、算数への興味を広げる。	・「練習」をする。(1) 補 充 ・多様な計算問題に取り組む。	電卓を用いて乗法の計算をしようとしている ・どうしてそのような結果になるのかについて		・乗数が小数の乗法計算ができる。 ・乗数が小数の乗法計算が正確にできる。		【関心・意欲・態度】 どうしてそのような結果になるのかについて自分なりの考えを持たせる。 教科書にある手順通りに計算させる。

						<p>【表現・処理】</p> <p>計算問題 20問を 8分以内でやらせる。</p> <p>整数の筆算として取り組ませ、後に小数点の移動について考えさせる。</p>
小 数 の わ り 算	<p>・小数でわることの意味と、整数÷小数(1/10の位まで)の計算のしかたを理解する</p>	<p>・立式を考える。</p> <p>・$200 \div 2.5$の計算のしかたを考える。</p> <p>・$200 \div 2.5$の計算のしかたをまとめる。(2)</p>	<p>既習の整数÷整数、小数÷整数に関連づけて整数÷小数(1/10の位まで)の計算のしかたを考えている</p> <p>・数直線などを使いながら既習をもとにして考えれば小数でわる計算であっても同様にできることに気づく。</p> <p>(イ、ウ)</p>	<p>・小数でわることの意味を理解している。</p> <p>・2.5に分けることは不可能だということに気づき、1つ分の量を求める計算であることを自分なりに記述で説明している</p> <p>(イ、ウ)</p>	<p>【考え方】</p> <p>問題場面を言葉の式や数直線などに置き換えて、数量の関係をとらえ、乗法の意味を説明させる。</p> <p>既習の「小数÷整数の計算のしかた」を想起させ、小数でわる計算に適用できないか考えさせる。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>単位小数に着目した考え方と除数と被除数を等倍しても商は変わらないという考え方や小数でわることの意味を説明させる。</p> <p>テープ図や数直線を使い、わり算はいくつに分けるのではなく、1つ分の量を求める計算であることをつかませ小数でわることができることを理解させる。</p>	
	<p>・1/10の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。</p>	<p>・立式を考える。</p> <p>・$7.8 \div 6.5$の計算のしかたを考える。(1)</p>	<p>・整数の除法の筆算のしかたに帰着して、1/10の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを考えている</p> <p>・筆算時に小数点を取ったり付けたたりすることの意味を説明できる。</p> <p>(イ、ウ)</p>	<p>・整数の除法の筆算のしかたに帰着して、1/10の位までの小数どうしの除法の筆算のしかたを考えている</p> <p>・筆算時に小数点を取ったり付けたたりすることの意味を説明できる。</p> <p>(イ、ウ)</p>	<p>【考え方】</p> <p>数の相対的な見方、除法に成り立つ性質などを活用して計算のしかたを考えさせ、それをもとに筆算のしかたを作り出させる。</p> <p>既習の計算を想起させ、被除数や除数を整数にするにはそれぞれ何倍すればよいかを考えさせる。</p>	
	<p>・1/10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数や被除数に0を補う場合)ができる。</p> <p>本時</p>	<p>・$2.8 \div 3.5$、$1.8 \div 2.4$などの筆算のしかたを考える。</p> <p>・左記の型の計算練習をする。(1)</p> <p>・1/10の位以下の小数のわり算について考える。</p>	<p>・1/10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数や被除数に0を補う場合)ができる。</p> <p>・1/10の位までの小数どうしの計算(商に0を立てたり被除数に0を補う場合)の説明ができる。(7,9)</p>	<p>・1/10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数や被除数に0を補う場合)ができる。</p> <p>・1/10の位までの小数どうしの計算(商に0を立てたり被除数に0を補う場合)の説明ができる。(7,9)</p>	<p>【考え方】</p> <p>1/100の位までの小数どうしの計算に拡張しても小数÷小数の計算方法(筆算)形式が変わらないことについて既習をもとにして説明できるようにさせる。</p> <p>十進位取り記数法にもとづき、小数の標記のしかたについて既習を振り返らせ、整数を小数に直す方法や割り進みをする場合の仕方について確認するように促す。</p>	
	<p>・純小数でわると商は被除数より大きくなることを理解する。</p>	<p>・$240 \div 1.2$と$240 \div 0.8$の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。</p> <p>・純小数でわると商</p>	<p>・数直線上で除数の大きさと関連づけて、被除数と商の大小関係を考えている</p>	<p>・数直線上で除数の大きさと関連づけて、被除数と商の大小関係を考えている</p>	<p>【考え方】</p> <p>数直線上に数量の関係を表現し、被除数と商との関係をノートに記述した上で説明させる。</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・実際に計算したり数直線を用いたりして除数が1より大きい場合と1より小さい場合の被除数と商の大きさの関係の違いを説明している。(イ、ウ) 			<p>数直線を用い、の位置が1よりも大きくなることに気づかせる。そして商は除数の大小によって被除数よりも小さくなることに気づかせる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小数の除法におけるあまりの位取りについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2.5Lのジュースを0.7L入りの水筒に入れると何個できて、ジュースはどれだけあまるかを考える。 ・小数の除法におけるあまりの小数点のうつつ位置についてまとめる。(1) 		<ul style="list-style-type: none"> ・あまりの小数点の位置を被乗数と関連させて考えている。 ・あまりの小数点は、被乗数のもとの小数点にそろえてうつつことを既習をもとに考えることができる。(イ、ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりのある場合の小数の除法計算ができる ・あまりのある場合の小数の除法計算が正確にできる。(ア、ウ) 		<p>【考え方】 被乗数のもとの小数点にそろえてあまりの小数点をうつつことの理由をノートに記述し説明できるようにさせる。</p> <p>あまりは除数より小さくなるという関係を想起させ、正しいあまりを考えさせる。</p> <p>【表現・処理】 商やあまりを求めた後、検算をするなどして、小数÷小数の計算が正確にできるようにさせる。</p> <p>既習を想起させ、あまりの小数点は被乗数の小数点にそろえてうつつことを助言する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小数の除法の答えを概数で表すときの処理のしかたを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積7.2㎡の長方形の花壇で横の長さが2.9mのときの、縦の長さを2けたの概数で求める。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> ・小数の除法の答えを必要に応じて概数で表すことができる。 ・概数処理が正確にできる。(イ、ウ) 		<p>【表現・処理】 小数点の位置を示すための0は数えないこと理由をノートに記述させて発言できるようにさせる。</p> <p>上から2けたの概数にするには何けたを四捨五入すればよいかを既習を想起させる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に習熟する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「練習」をする。(1) <p style="text-align: center;">補 充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な小数のわり算の問題に取り組む。 			<ul style="list-style-type: none"> ・除数が小数の除法計算ができる。 ・除数が小数の除法計算が正確にできる。(ア、ウ) 		<p>【表現・処理】 計算問題20問を8分以内でやらせる。</p> <p>整数の筆算として取り組み、後に小数点の移動について考えさせる。</p>
<p>小数倍とかけ算・わり算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較量、基準量が小数の時も、倍は除法で求められることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・3.6km、1.8kmは2.4kmの何倍かを求める方法を考える。 ・比較量、基準量が小数の場合でも倍を求めるには除法を使うことをまとめる。(1) 			<ul style="list-style-type: none"> ・比較量、基準量が小数の場合でも、何倍かを除法で求めることができる。 ・数直線などを活用して小数倍を除法を使って求めることができる。(ア、ウ) 		<p>【表現・処理】 整数倍の場合と対比しながら根拠をもって説明できるようにさせる。</p> <p>図を活用して、比較量と基準量の間をとらえさせ、既習の整数のときは除法で立式できたことを想起させる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・倍を表す数が小数のときも比較量は基準量×何倍で求められることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5mの3.5倍、0.6倍の長さの求め方を考える。 ・小数倍のときも比較量は基準量の何倍で求められることをまとめる。(1) 		<ul style="list-style-type: none"> ・倍を表す数が小数の場合でも小数倍にあたる大きさを求めるには、整数の場合をもとに発展的に考えている 			<p>【考え方】 整数倍の場合と対比しながら根拠をもって説明できるようにさせる。</p> <p>整数倍である2倍や3倍のときにはどのように立式するかを考えさせ、それをもとに</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・数直線などを活用して比較量を求めるには乗法を用いればよいことを考えることができる。(ア、ウ) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・倍を表す数が小数のときも基準量は比較量÷倍で求められることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・63kgが基準量の1.8倍にあたる時の基準量の求め方を考える。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・倍が小数の場合でも基準量を求めるには整数の場合をもとに発展的に考えている。 ・数直線などを活用して基準量を求めるには除法を用いればよいことを考えることができる。(ア、ウ) 		<p>【考え方】</p> <p>整数倍の場合と対比しながら根拠をもって説明できるようにさせる。</p> <p>整数倍の学習を想起させ、数直線に小数の数値をあてはめさせても関係は変わらないことに気づかせる。</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解を確認する。 ・学習内容の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たしかめ」をする。(1) [チャレンジ] 発展 ・電卓を用いた数当て手品をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電卓を用いて除法の計算をし ようとしてい る。 ・どうしてそのような結果になるのかについて考えようとして 		<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>どうしてそのような結果になるのかについて自分なりの考えを持たせる。</p> <p>教科書にある手順通りに計算させる。</p>

評価方法

項	評価の方法	評価の具体的な方法
ア	行動観察	授業者または観察者のチェック
イ	発言分析	児童の発言回数、内容の分析
ウ	ノート、ワークシートへの記述の分析	記述の内容の分析
エ	自己評価、相互評価	自己評価カードによる評価、感想文などの分析
オ	テストによる評価	小テスト、単元テスト

重点評価項目

5 本時の指導

(1) 本時の授業仮説

「まとめる」段階で、1 / 100の位以下の小数を小数でわる計算を取り上げれば、筆算の仕方を更に深く定着させることができるであろう。

(2) 本時の目標

1 / 10の位までの小数どうしの除法の計算(商が純小数、被除数に0を補う場合)ができる。

(3) 本時に関わる基礎・基本と発展場面について

ア本時に必要な基礎基本

整数÷整数、小数÷整数、小数÷小数の筆算形式とその計算方法。

イ本時の基礎・基本

もとにする単位をかえることでわり進みが可能になる考え方

整数を小数にかえて計算する考え方(8 8.0)

商に0をたてて小数点をうってから計算する考え方

ウ本時の発展場面について(発展)

本時で学習したことを活かして練習問題を解き、その中に発展学習として1 / 100の位以下の問題を組み入れる。そこで、1 / 100の位以下になっても筆算で計算できるかを確認、位が下がっても筆算の仕方は変わらないことの更なる定着を図る。

(4) 展 開

段階	学習内容・学習活動	評価と支援の手立て	準備・資料
つかかむ	<p>1 前時想起</p> <p>(1) $12.6 \div 4.5$ を計算する。</p> <p>(2) 小数÷小数の筆算の仕方を確認する。</p> <p>2 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>下の筆算のしかたを考えましょう。</p> $3.5 \overline{)2.8} \quad 2.4 \overline{)1.8} \quad 2.5 \overline{)8}$ </div> <p>(1) 既習の筆算との違いを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・、は、わられる数がわる数より小さい。 ・は、わられる数が整数。 <p>3 課題把握</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いろいろな筆算のしかたを考えよう。</p> </div> <p>4 見通し</p> <p>(1) 考え方の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わる数を整数にすれば計算できる ・、は、商に0を立てる。 ・整数の8は8.0と考えればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の定着度を確認し、落ちている部分は是正する。 ・既習との違いを一つ一つ板書して全員で確認できるようにする。 ・課題は教師側から提示する。 ・自力解決に全員安心して入れるように1問1答ではなく、発言を広げたり繰り返したりしながら見通しを持たせる。 	<p>問題</p> <p>紙板書</p>
10分			

<p>た し か め る 15 分</p>	<p>5 自力解決</p> $\begin{array}{r} 0.8 \\ 3.5 \ 2.8.0 \\ 2 \ 8 \ 0 \\ 0 \end{array} \qquad \begin{array}{r} 0.75 \\ 2.4 \ 1.8.0 \\ 1 \ 6 \ 8 \\ 1 \ 2 \ 0 \\ 1 \ 2 \ 0 \\ \hline 0 \end{array}$ $\begin{array}{r} 3.2 \\ 2.5 \overline{) 8.0} \\ \underline{7 \ 5} \\ 5 \ 0 \\ \underline{5 \ 0} \\ 0 \end{array}$ <p>6 比較検討</p> <p>(1) 考えの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ~ について発表する。 <p>(2) 共通項・筆算形式の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わる数を整数にする。 ・ 商に0を立てる。 ・ 整数は0をつけて小数にする。 	<p>具体的評価規準に基づいて評価し、支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆算パターンの確認の意味が強いので全員で声を出して読んだり、検算をしたりして筆算形式(余りなし)の理解の完成を図る。 	<p>自力解決用紙</p>
<p>ま と め る 20 分</p>	<p>7 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>小数÷小数の筆算は、わる数を整数にすれば計算することができる。</p> </div> <p>8 問題を解く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 / 100の位以下の小数を小数でわる計算を組み入れた問題に取り組ませる。 <p>(3.7÷2.368、8.4÷3.36、7÷1.25)</p> <p>9 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感想等をノートに書く。 <p>10 次の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめを各自のノートに記入させてから全体で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>机間指導 2回目</p> </div> <p>具体的評価規準に基づいて評価し、支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価、相互評価の観点を含めて感想を書くように指示する。 	<p>ワークシート</p>

(5) 評価と支援の手立て(考え方) 1 / 10の位までの小数どうしの除法の計算ができる。

	A	B	C
具体の評価規準	・ 1 / 100の位以下の小数 ÷ 小数の計算方法を既習事項を手掛かりにして説明することができる。	・ 1 / 10の位までの小数 ÷ 小数の計算(商が純小数や被除数に0を補う場合)の仕方を説明できる。	・ 1 / 10の位までの小数 ÷ 小数の計算(商が純小数や被除数に0を補う場合)の仕方を説明できない。
予想される反応	・ 1 / 100の位以下になっても考え方、方法はこれまでと同じだ。 ・ 何けた位が下がっても同じように計算することができる。	・ わる数を整数になおす。 ・ 商に0を立ててから計算しなければならない。 ・ 整数は小数に直してから小数点の移動をしなければならない。	・ わる数を整数に直せない ・ 商に0を立てられない。 ・ 整数を小数化できない。
指導の手立て		・ 本時の学習のまとめを考えさせる。	・ 十進位取り記数法にもとづき、小数の標記のしかたについて既習事項を振り返らせる。 ・ 整数 ÷ 整数として計算させ小数点については既習を想起させて移動させるようにする。

6 板書計画

問題	課題	まとめ
<p>下の筆算のしかたを考えましょう。</p> $3.5 \overline{) 2.8} \quad 2.4 \overline{) 1.8} \quad 2.5 \overline{) 8}$	<p>いろいろな筆算のしかたを考えよう。</p>	<p>小数 ÷ 小数の筆算は、わる数を整数にすれば計算できる。</p>
<p>これまでの筆算と違うところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 、 は、わられる数がわる数より小さい ・ は、わられる数が整数 <p>考え方の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わる数を整数にする。 ・ 、 は、商に0を立てる ・ 整数の8は8.0と考える 	<p>児童の発表</p> <p>児童の発表</p> <p>児童の発表</p>	<p>練習問題</p> <p>1 / 100の位までの小数 ÷ 小数の筆算について板書する。</p>

7 座席表

教 卓

 (小数のわり算)

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア	ア
イ 1 3 5 6	イ 1 3 5 6
ウ 4 6 7 8	ウ 4 6 7 8
エ 2	エ 2

ア 関心・意欲・態度	評価する時間
イ 考え方	
ウ 表現・処理	
エ 知識・理解	
レディネステスト	%以上：
既習問題の結果	～ %：
未習問題結果	%未満：